

## 平成27年度函館市学校教育審議会第2回総会 会議録

日 時	平成27年9月29日（火） 16:00～17:10
場 所	函館市役所8階 大会議室
出 席	<p>委 員 松 田 貞 子（函館市町会連合会理事）          佐々木 昌 子（旧南茅部町教育委員）          藤 井 壽 夫（函館短期大学教授）          見 澤 敏 弘（前函館市立亀田中学校長）          武 田 隆 雄（元函館市小学校長会会長）          小 松 一 保（北海道教育大学教授）          青 田 基（函館市PTA連合会会長）          三 浦 友 和（ ” 副会長）          照 井 千 津（ ” 副会長）          吉 田 大 輔（ ” 副会長）          小 野 田 府（ ” 副会長）          前 岡 亮 司（ ” 常任委員）          山 田 輝（ ” 常任委員）          八 木 裕（函館市小学校長会会長）          菊 池 守 晃（函館市小学校長会副会長）          高 橋 登（函館市中学校長会会長）          蓮 本 裕 一（函館市中学校長会事務局次長）          新 山 亨（函館市小学校教頭会副会長）          前 原 聡 子（函館市立はこだて幼稚園長）          相 澤 弘 司（北海道教職員組合函館支部長）</p> <p>事務局 山 本 真 也（函館市教育委員会教育長）          小 山 みゆき（学校教育部長）          佐 藤 ひろみ（生涯学習部次長）          齋 藤 利 雄（学校教育部参事）          田 中 麻衣子（ ” 学校教育課主査）          笹 原 詩 織（ ” 主事）</p>
欠 席	<p>委 員 阿 部 義 一（函館市町会連合会常任理事）          藤 川 隆（函館大学教授）          横 田 貴 之（函館青年会議所理事長）          仲 井 靖 典（函館市中学校教頭会事務局次長）          山 田 肇（北海道教職員組合函館支部書記長）</p>
傍 聴	3名

## 1 開 会

出席者20名で過半数を超えているため、会が成立していることを宣言。

## 2 教育委員会挨拶（山本教育長）

## 3 委員および事務局紹介

## 4 会長および副会長選出

《会長に武田隆雄委員，副会長に青田基委員を選出》

## 5 諮問

《教育長より「尾札部中学校・臼尻中学校の統合について」を諮問》

## 6 審議

《事務局より諮問事項について説明》

今回の諮問事項である尾札部中学校と臼尻中学校の統合については，7月15日に南茅部地区の小・中学校5校のPTA会長名による要望書の提出があったところである。

南茅部地区は，小・中学校再編計画において，戸井，恵山，楳法華地区とともに第7グループに位置付けられている区域であるが，第7グループは，再編の検討開始時期を定めておらず，児童生徒数や地域の状況を踏まえ，随時検討することとしており，このたびの要望を受け，検討を開始することとしたため，本日諮問させていただいたものである。

なお，再編計画における南茅部地区の学校配置の考え方は，当面旧行政区域を超える統合は行わないこととしており，再編後の学校数の見通しは，南茅部地区内で中学校1校と想定している。

配付資料の1ページをご覧ください。

1ページは，学級数および生徒数の推計である。

尾札部中，臼尻中各校の推計と2校を統合した場合の推計である。

推計の考え方についてだが，平成27年度は，5月1日現在の在籍者数，平成28年度以降については，2，3年生は，前年度の1，2年生の人数をスライドし，

1年生は，平成27年5月1日現在の住民基本台帳データを基に推計している。

平成27年度現在，2校とも各学年1学級で，生徒数は，100人に満たない規模である。

特に臼尻中では，全校生徒数が50人を下回っており，今後の推計では，複式学級とはならないものの，1学年が10人以下となる年度もでてくることが見込まれる。

次に2ページをご覧ください。

2 ページは、尾札部中と臼尻中の学校施設の概要と通学区域についてまとめたものである。

学校施設については、2 校とも昭和 4 0 年～5 0 年ごろの建築であり、老朽化が進んでいる。また、耐震診断では、校舎、体育館ともに耐震補強が必要という結果となっており、尾札部中学校の体育館については、平成 2 6 年度に改修工事を実施したところである。

次に通学区域についてだが、南茅部地区は、海岸に沿って東西にのびており、区域の端から端まで約 3 0 k m の距離がある。

現在の通学距離は、尾札部中の校区の東端から、尾札部中までは、約 1 0 k m、反対側の西端から、尾札部中までは、約 5 . 5 k m である。

臼尻中の校区の西の端から、臼尻中までは約 8 k m、東端からは、6 . 5 k m ほどとなっている。

なお、通学距離が、概ね片道 6 k m 以上となる生徒に対しては、尾札部中では、スクールバスの運行、臼尻中では、バスの定期券代の補助という形で通学支援を実施している。

次に 3 ページの資料 2 をご覧いただきたい。

資料 2 は、今回提出された要望書の写しである。

子どもの数が少なくなってきたことにより、特に中学校において、学校行事や部活動に影響がでてきていると保護者の皆様が感じており、今後の生徒数の見込などを考え、早期に中学校の統合が必要であるという意見でまとめ、要望書を提出することになったとのことである。

具体的な要望事項としては、要望書の一番下にあるように、「尾札部中と臼尻中の早期の統合」、「両校の中間点付近での校舎新築」、「遠距離通学生徒への通学支援」の 3 つとなっている。

委員の皆様には、保護者の意向も踏まえながら、審議を進めていただきたい。

なお、要望には、校舎の新築があるが、審議会におかれましては、統合校の位置について、どのような位置が望ましいのかという観点で検討していただければと思う。

私からの説明は以上である。

(会長)

今、事務局の方から説明があったが、この内容に関わってご質問あるか。

(委員)

私は、南茅部地区に住んでおり、同じ函館市内とは言うものの、旧市内とは全然環境が違い、生徒数が少なくなる中、部活動もできなくなることをだいぶ前から P T A の方々などの間でよく話に上がっており、私も耳にしていた。今回、早く統合の動きを押し進めて欲しいという要望が父兄から出たのも、以前の磨光小学校の統合に対し、

父兄は良い印象をもっているからであり、先生方のきめ細やかな指導や、それに父兄が協力するという環境づくりを一生懸命してきた背景がある。今度は中学校ということで、ここで地図を見ていただくとわかるように、臼尻中・尾札部中とあり、とても細長い地形。端から端までとなると、本当に長く、学校に通うのも、自動車で送り迎えというのが結構多い。また、統合を考えたときに、尾札部中は建築年が古く、やはり距離も遠くなる。では臼尻中となるとまたこれも遠いので、真ん中あたりに統合校を、という父兄の気持ちもわかる。私もできることなら、そうであってほしいという気持ちはある。私は地域に住んでいるので、皆さんが疑問に思うことなど、細かく答えられたらと思う。よろしくお願ひしたい。

#### (会長)

地元の声や要望の背景などについて具体的にお話しいただいた。事務局の把握できないところもご存じかもしれないので、それも含め、ほかに質問等はないだろうか。では、皆様からのご意見をいただきたい。

#### (委員)

今回の諮問事項が、「尾札部中学校・臼尻中学校の統合について」だが、私はこれに諮問理由が必要だと思う。PTAから要望書があがってきたことが、イコール教育委員会からの諮問ということにはならないと思う。また、統合校は新設に関しては除いて位置という部分だけ、という付加的な説明が先程あったが、そのような部分も明記した諮問理由の提示が改めて必要だと思うがどうか。

#### (事務局)

今回の諮問は、今までの再編計画に係る諮問事項と合わせた形にしている。内容については、先程説明した通りだが、要望書があがってきたから諮問をしたのではなく、要望書があがってきたことを契機として、教育委員会が主体的に進めるという意志の表れということにとらえていただければと思う。

#### (委員)

今回はPTAから要望があがったから諮問したのではない、ということだが、このながれでは結果的にそういう形での諮問とうけとらざるを得ないと思う。また、観点が示されておらず、何をどのように論議していけばいいのか、という部分があいまいである。重点的な観点を示していただいた上で、論議に入っていってはどうか。

#### (事務局)

この南茅部地区を含む第7グループ（戸井，恵山，椴法華，南茅部地区）は、再編検討時期を定めていないグループである。また、グループ内で再編を予定しているの

は、南茅部地区と戸井地区だけとなっており、そのようななかで、いつ再編検討を始めたらよいかということを検討していたところであるが、今回地域の方、PTAの方の要望が高まってきたことを1つの契機として考えた。

再編検討をするにあたっては、統合の妥当性ということについては、学校教育審議会でも検討していただかなければならないということである。

また、校舎新築については、本審議会でも扱う事項ではないので、統合校の位置としては、どこが望ましいのか、また、既存の中学校のどちらかによせる場合はどちらがいいのか、ということも含めたうえで検討していただきたい。

#### (会長)

今の説明を聞くと、当初の再編計画には、いつということは明記していなかったが、PTAから要望が上がったことを契機として、統合が妥当か、子ども達の教育環境の整備につながるのかどうかということをも本審議会でも審議するということだと思いがそのようなことでいかがか。

#### (委員)

それを口頭ではなくて文書できちんと出してほしい。スタートをはっきり確認しておかないと、これから話が二転三転すると思う。

#### (委員)

事務局に伺いたい。今、第2グループ小学校の小委員会がスタートしており、それとこの南茅部2校の分は、どのような手順で進めるのか教えてほしい。そのなかで例えば小委員会のなかで進めて行くのであれば、今意見があったような観点はやはり大事なことだと思うので、提示してもらえれば今後審議していくなかで方向性が見えてくるのではと思う。

#### (事務局)

まず、現在、小委員会は1つしかないので、このなかで検討していくことになるかと思う。今回は、要望書が提出されているので、これまでの再編検討におけるプロセスの一部を省略するなど、どのような方法で検討していくかということも含めてみなさんと検討しながら進めていきたいと考えている。できれば第2グループ小学校と、尾札部中・白尻中の統合について、同時に答申をいただければと思っている。

#### (会長)

観点について文書でという意見があったが、それについてはどうか。

**(事務局)**

観点については、後ほど追加で提出したい。

**(委員)**

今回この5つの小・中学校から要望書があがってきたなかに、早期の統合、校舎新築、通学支援と要望事項が3つ書いてある。先程、校舎新築は別でという話をされていたかと思うが、PTAとしてはこの3つが要望なのではないかと私は思うがいかがか。

**(事務局)**

確かに3つ要望事項が挙げられている。そのなかで、学校教育審議会が受けるのは、尾札部中学校・臼尻中学校の早期の統合という部分だけになるので、どうなのかということはあるが、校舎新築については、統合という結論になってからの話になると思う。

諮問させていただくのは、1点目の早期の統合という部分であるが、副次的に2点目・3点目も考慮にいれながらの審議もしていただければと考えている。

**(委員)**

今、事務局がいったことは、尾札部・臼尻のPTAの方々が要望書を持参した際には、了解して帰っているのか。つまりこの要望書を出した時点では3つの条件をまとめてクリアしてほしい、ということではなかったのか。

**(事務局)**

要望としては3つセットだと思う。ただし、この要望の話を受けたときに、我々としては、3つ全てはなかなか受けられないという話はさせていただいた。今までの統合というのは、どこか統合校を決めてそちらによせる、という方法で進めていたので、その方法が今回取れないのかということも含めて、意見聴取会などで地域の方々の意見も聞き、考えていかなければならないと思っている。出していただいた要望は3つではあるが、切り離して考えていく必要があるのではと思っている。

**(会長)**

そのあたりも含めて、地域の方々から意見を聞く意見聴取会も今後小委員会で行うという方向で進むことになる。

**(委員)**

これから第2グループ小学校とこの第7グループ中学校は同時進行で審議していくことはわかった。そして先程教育長のお話にも、そして新聞にも載っていたが、今

後戸井・恵山・楨法華地区や市内の他の小・中学校の再編の審議もどんどん入っていくということだが、これから審議事項が増えていくなかで、どのようにしたら効率的に審議を進められるか、小委員会の構成の面を考えていただきたい。

#### (事務局)

まず、また審議事項が増えるのではないかという不安の声だが、それに関しては、まずは現在の第2グループ小学校と南茅部地区の中学校の諮問だけにとどめて、審議を進めていきたい。これらの答申がまとまった後、次に入っていきたいと思っている。次の部分については、来年になると思うが、どういう方向がいいのか、スムーズにお示しできるようこちらでも審議を進めて参りたい。

#### (会長)

今年度、先行して第2グループ小学校の審議は進めているが、それに加えて今回の尾札部・臼尻の統合についても、この後小委員会に審議をお願いしていく形になろうと思う。それ以外のグループについては来年度以降ということで、今回のこれには重ならないということである。

#### (委員)

例えば小委員会の人数を少し増やしてA班B班のように分けて審議をするなど、もっと効率的に審議がしていける形・方法を考えていただきたいという意見である。

#### (事務局)

小委員会のあり方についても、いろいろご相談しながら考えていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

#### (委員)

前回の小委員会のなかで確認された事項として、事務局からは目途として次回の総会までに一定の方針を出したい、ということだったが、委員のなかでは地域の人たちが納得するような案を小委員会として作りあげるまでは締切にとらわれない、という部分で合意をしている。そのような中で、今回南茅部地区の審議が一緒になるとなると、やはりその時期を越して結論を出すことになるのだろうと思う。早急にというお話しが先程あったが、それが叶わないのではないかという懸念がある。もう1つ、先程来お話しにあった通り、3つの要望事項があるなかで統合の妥当性について議論をすると。そして統合の妥当性があるとなったときに、函館市として校舎の新築はできない、となった場合、学校教育審議会で議論したものは無駄になるのではないか、という懸念がある。

### (事務局)

まず、進め方についてだが、答申の目標は目標として、目指すものではあるが、絶対にその時期までに、ということではない。我々としては委員の皆さんの理解が深まるように、資料の組み立てや要望も聞きながら頑張って参りたい。それともう一つ、もし、統合ということになったが、新築できないとなった場合についてだが、以前審議を行った、凌雲・光成・的場中の統合のときも、新築は一切約束していない。統合の妥当性が決まってから、校舎新築予算要求・折衝をしてきている。

あくまでも答申を受けて決定するのは教育委員会であるので、先ほども申し上げたが、まずは、統合の妥当性について議論していただけたらと思う。

もちろん、教育委員会としても努力していくつもりである。

### (会長)

今、事務局の方から、努力していくというお話があったが、3つの要望すべてに応えられるかはわからず、難しいことはあるが、まずは統合の方向で進め、できれば要望にもある新校舎建設や通学補助についても叶えていただきたい、というような答申の形でもいいのかな、と考える。委員のなかに、中学校の先生方もいらっしゃるが、部活動や行事の面などから見て、規模が小さくなると難しい面が出てくるというような話もあるが、その点いかがか。

### (委員)

小・中学校関係なく子どもたちにとってよい教育環境というのを考えると、生徒数や施設面など様々ある。資料の推計を見てみると、1学年の人数が十数人となると、まずクラス替えもありえず、3年間ずっと同じメンバーとなる。また1人2人でできることもあるが、例えばグループで行う活動、部活動も含めある一定の人数で進めなければならない教育活動がある。中体連でいうと、今は合同チームを近隣の学校と組んで出場することは可能にはなってきたが、必ずしもこれは望ましい形ではない。そう考えると、両校を合わせても100人ちょっと上回る人数で、適正とは言えないかもしれないが、1学年十数人という状況よりは統合した方が、さまざまな教育活動に活気も出てきて子どもたちの意欲も高まるのではないかと十分想定される。確かに校区で言うと南北に長くなるので、たとえ真ん中に新校舎をつくったとしても遠いお子さんはバスでの通学や自家用車での通学となるかもわからないが、しかし両地区の中心部分に位置する方が、PTAや地域の望む形で、子どもたちにとって一番よいのではないかと。校舎を新築するとなるとやはり大きなお金が必要となるが、ただ子どもたちの教育環境を考えたときに、市内の学校と比べるとまだまだ人数的にも条件的にもこの地域は厳しい部分があるので、できればそのような条件を整えてあげて、統合校が開校するのがよいのではないかと。



(委員)

基本的には、学校は地域の要望が一番だと私は思う。地域の方々が自分たちの住んでいる地域の将来を考えて要望を上げてきた、というのは非常に重みがある。やはりそこをどこまで聞き受けられるのかということを審議していただきたい。また、そのなかにいろいろ新築校舎の件や通学バスの件など出てくると思うが、それらは付随的に一緒に検討していくべきだと考える。それよりもこの文書を読んで感じているのは、早期に決着をつけていただきたいという要望なのだとということ。遅らせる理由はあまりないので、そこがスムーズに行けるように、まずは考えていただければと思う。

(委員)

今日の総会の案内を頂いた段階で、尾札部中と臼尻中の統合についてということで、もう統合は進めるという前提で話を進めると思ってきたが、お話しを聞いていると、もっと南茅部地区全体を考えなければならない、ということが話の中心になってきているようだ。新築するのが難しいとなると、結局尾札部中にいくのか臼尻中にいくのかという話になると思う。それで尾札部中、臼尻中のちょうど真ん中あたりに磨光小と臼尻小があるので、それだったら、そこに小学校と中学校を統合させ、小・中一貫校とすると、地域的な問題は若干緩和されるのではと思う。この私のアイディアは考えられないだろうか。

(会長)

では、中学校の統合はせずに小中併置校を2つつくるということか。

(委員)

それか、あるいは小・中5校を、新築できないのであれば距離的に問題のない校舎を選び、そこを小・中併置校にしてしまうというのはどうか。

(会長)

今、1つのアイディアとして意見をいただいたが、将来的に人数が減ってきたときにそのようなことも起こってくると思う。

(委員)

少子化はこれからどんどん進んでいき、今、考えているのは数年後の話だが、5年、10年後には間違いなくもっと子どもが少なくなり、これからも統廃合が続くとなるのであればいっぺんに、という手もあるのではないかと思う。

(会長)

そうですね。将来的な部分も心にとめておきながら、考えていく必要があるという

ことでお話しいただいた。

それでは、予定の時刻になったので、今後の進め方だが、小委員会の方で詳細な検討を進めていくことになると思うのだがよろしいか。

(委員)

今後の進め方については、事務局が後日文書で観点を示すということだったので、どのような方向性でこの統合が進められるを審議会全体が全く承知していない状態で小委員会に付託して進めるのはいかがなものか。

(会長)

では、もう一度総会を開催したうえでということか。

(委員)

それが話し合いというものではないか。

(事務局)

進め方について事務局の方で再度検討し、再度総会を開催したい。

(委員)

もう一度総会を開催するのは良いが、前回の第2グループ中学校の際も、先ほどの意見にあった理由のようなものを事務局が示して、小委員会へ審議を任せるという形をとったということによろしいか。

(委員)

私の記憶では、もっと詳しい資料と方向性が総会の中で示されて、それを確認の上、観点を絞って小委員会に付託したと記憶している。

(委員)

ということであれば了解した。

(委員)

もう一度総会を開催するというのであれば、小委員会の持ち方という部分も検討していただき、総会で提示していただきたい。

(事務局)

検討させていただく。

(会長)

では、小委員会の持ち方についても、次回の総会で話し合うということによろしいか。

他に事務局から何かあるか。

(事務局)

事務局より、小委員会の活動について報告する。

8月18日18:00より市役所の会議室において、第1回目の小委員会を開催した。

会議では、今後のスケジュールや第2グループ小学校の再編について審議を行い、委員の皆様には、率直な意見をたくさんいただいたところである。

今後、各校の現地調査などにより、実態をよく把握しながら、具体的な審議を進めていく予定である。

(会長)

では、以上で議事を終了する。

みなさんのご協力に感謝する。

## 7 閉会

以上、平成27年度函館市学校教育審議会第2回総会 会議録と確認する。

会長 武田 隆雄